

作物名：りんご

病害虫名：キンモンホソガ（学名：*Phyllonorycter ringoniella*）



写真1 キンモンホソガ成虫



写真2 キンモンホソガ幼虫



写真3 キンモンホソガ被害葉

1 被害の特徴と診断のポイント

- 幼虫が葉の内部に潜入して加害し、表皮をしわ寄せするため、葉の表側はテント状に盛り上がり、マインと呼ばれるやや縦長の斑点状食痕が生じる。葉裏は潜孔によって水ぶくれ状をしている。
- 寄生数が多いと落葉が早まる。葉の機能が低下し、花芽形成、果実品質への影響がでる。

2 生態

- 発生回数は東北南部では年5回。東北南部での発消長は、第1世代は4月下旬、第2世代は6月上旬、第3世代は7月中旬、第4世代は8月中旬、第5世代は9月中旬頃である。発生適温は20~25℃。
- 第1世代は4月下旬から5月上旬にかけて発生する。新葉の裏の支脈沿いに産卵し、ふ化幼虫は葉に潜入して、葉内で蛹となる。越冬幼虫は、落葉内で蛹で越冬し翌年の発生源となる。降雪が少ないと越冬世代の生存率が高い。春期は台木のひこばえに産卵が集中する。
- 天敵である寄生蜂も多く、キンモンホソガトビコバチなど20種程度いる。

3 防除方法

- 発生量は世代交代につれて増加するため、特に第2・3世代の防除に努める。
- 徒長枝葉に多く寄生するため、不要な徒長枝は整理する。

4 出典

(1) 参考文献

- ひと目でわかる果樹の病害虫 第三巻（日本植物防疫協会）
- 農業総論 病害虫防除・資材編 5（農文協）
- 日本農業害虫大事典（全国農村教育協会）
- 原色りんご病害虫図説（青森県りんご協会）

(2) 写真

- 宮城県病害虫防除所撮影

（令和5年9月改訂）